**COMMANDING HEIGHTS 2 シケプリ**

**2009.7.20 大川祐作**

教官作成の教材をベースに、その質問に答える形で色々と書いてあります。一応授業録音mp3聞きながら作りました。みんなも聞いてみるといいかも。

各セクションの終わりには、該当チャプターの内容の要約をつけてあります。質問の答えと要約を合わせれば話の流れがよりわかりやすくなるかなぁと思います。

**THREE KEY QUESTIONS**

**A: The reasons of economic disaster and shift toward neoliberalism:** Why did state-centered or state-active economies—such as Socialism and ISI fail? Why have most countries in the world turned back toward free-market capitalism after 80 years of experimentation with socialism, communism, and fordism?

**B: The cost of transition.** What happens when command economies transform into market economies? How is the transition best undertaken?

**C: Economic freedom and political freedom.** Is there a relationship between open markets and political freedom?

**SPECIFIC QUESTIONS (TAKE NOTESWHILE WATCHING)**

**The Iron Curtain－鉄のカーテン**

[A] What did Oleg Gordievsky, a British spy, find out about Soviet Union?

→ソビエトは全経済の半分を軍事費に費やしていた。ソ連経済はもはや崩壊寸前であった。

[A] When governments control or dominate a national economy, what happens? What was the fundamental problem of the socialism?

→労働者のincentiveの欠如。労働者が全く働かなくなった。

<Chapter3>

80年代、Oleg Gordievskyはイギリスのスパイとしてソ連に侵入するも、KGBに逮捕された。イギリスはGordievskyの救出計画を練り、彼をロンドンまで連れ戻した。鉄のカーテンの向こう側の情報がなかなか手に入らない時代、彼がもたらした情報は非常に貴重であった。当時のイギリス情報局はソ連の軍事ばかりに注目していたが、本当に重要なのはその経済状況であった。ソ連は全経済の半分を軍事支出に充てており、経済はすでにボロボロだったのだ。そして何より、社会主義体制下においては労働者の労働意欲が減退し、労働者が働かなくなることによって、ソ連経済の崩壊を招いていたのだった。

**New Delhi, India**

[KW] **central planning**

→政府が経済の大部分に介入する経済政策。

[A] When governments regulate markets and privately owned industries, as in the case of India, what happens?

→どんなビジネスをするにも政府の許可が必要となった。ペーパーワークは煩雑になり、企業家たちは事を起こそうにも事業がなかなか先に進まない現実があった。結果として賄賂が横行し、経済は停滞していた。

[A] Which development strategy did India follow? What was the fundamental problem of such a strategy?

→輸入制限によって海外との競争を排除し、自国経済の保護することで自発的発展を目指した。だが競争にさらされない産業は、よりよい製品を作ろうとするincentiveに欠け、生産性の低下を招いた。ここにはソ連との共通性を見いだせる。

<Chapter4>

インドは1947年にイギリスから独立した後、政府による経済支配を敢行した。”Permit Raj”(許可統治)の下あらゆる経済行為に政府の許可が必要となり、1500ドルのコンピュータを輸入するのに1～2年かけてデリーに50回も訪問する必要があるほどであった。ビジネスマンはなかなか新しい事業をおこすことができず、結果として賄賂が横行した。インドはself-

sufficientlyな国家を目指し、輸入制限による自発的経済発展を志向したが、海外との競争から断絶された企業は生産性が低下し、経済の停滞を招いたのだった。

**Latin America**

[KW] **dependency theory－従属理論**

→この理論は「先進国」の経済発展と「第三世界」の低開発をセットにして考えようとするものである。すなわち、[第三世界](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AC%AC%E4%B8%89%E4%B8%96%E7%95%8C)の低開発は彼らを支配する[先進国](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%88%E9%80%B2%E5%9B%BD)に原因があり、第三世界の近代化（資本形成）は先進国の経済発展に従属する形において行なわれる、という主張である。この問題を解決するには、前者の後者への従属を断ち切る必要があるというもの。

[A] According to Daniel Yergin, what strategy of high economic growth did the

dependency theory offer? (Daniel Yergin : Commanding Heightsの作者)

→関税によって国家の力で輸入を制限し、自国産業を育成して先進国に劣らない経済発展を成し遂げようとした。

cf) 輸入代替工業化　import substituting industrialization; ISI  
国内工業の振興によって輸入工業品から国産品への代替を進め，保護の下で工業化を図ろうとする開発政策。

[A] What was the problem of this approach? Why were the Latin American countries falling back instead of getting ahead? When governments restrict their domestic economies from open participation in foreign trade, what happens?

→国際的競争にさらされない企業は非効率な生産しか行えず、世界的な技術や投資、ノウハウの流れから隔絶されてしまった。

<chapter5>

貧困にあえぐラテンアメリカの国々では、従属理論に基づき輸入制限と自国産業の保護によって経済発展を目指していた。だが国際的競争にさらされない国内企業は国際的技術や投資の流れから切り離され、低品質高価格な製品しか作れない怠惰な企業となっていった。結果としてラテンアメリカの国々は、より貧困苦しむことになったのである。

**Santiago, Chile**

[KN] **President Salvador Allende**

サルバドール・アジェンデ

→チリの社会主義政党の政治家。1970年にチリの大統領に就任。アジェンデ政権は暴力革命でなく、選挙を経て民主的に成立した初めての社会主義政権であり、世界史的にも大きな意味を持っている。

[A] What did President Salvador Allende do in Chile? Was he left or right?

→企業の国有化・接収、価格統制の実施など左翼政策を行った。都市や農村のエリートの手から労働者や農民に利益を移していこうと志すも、その政策は経済の大きな混乱を招いた。(社会主義政権を厭うアメリカの執拗な反政府工作の影響も大きい)

[KE] **Military coup**

→軍事クーデタの発生。ピノチェト将軍率いる軍が大統領官邸を急襲し、アジェンデを殺害した。

[KN] **General Augusto Pinochet**

アウグスト・ピノチェト

→合衆国の支援を受け軍事クーデタによってアジェンデ政権を打倒した後、軍事政権を設立。「独裁者」として強権政治を行い、左派勢力の虐殺などに対しては国際的非難を浴びた。軍人としての彼は当初経済混乱を秩序によって統制することを考えたが、これに対してシカゴグループが行動を起こした。

[KW] **Chicago Boys**. Who were the “Chicago Boys”? What were their visions/beliefs about the relationship between the state and the market?

シカゴグループ

→シカゴ大学に留学し、経済を学んできたチリ人の経済学者たち。フリードマンら新自由主義経済学者の下に学び、政府の市場介入を最小限にして自由市場に重点を置く市場主義を信奉した。

フリードマンをチリに招聘し、チリに新自由主義経済改革を起こすことを目指した。

[KN] **Milton Friedman**: Were his ideas closer to Keynes, Marx, or Adam Smith?

ミルトン・フリードマン

→アメリカの新自由主義経済学者。フリードマンにとっての理想は規制のない自由主義経済であり、あらゆる市場への規制は排除されるべきと考えた。これはアダム・スミスら古典派経済学者の意見と同等であり、フリードマンはケインズ経済学を古典的自由主義の立場から批判する「新自由主義」の代表的存在となった。

[C] In Milton Friedman’s opinion, are economic freedom (free market) and political freedom (democracy) related?

→フリードマンは、経済的自由と政治的自由は切り離せないという考えを持った。ピノチェトに対しても、自由主義経済改革の道を進むならあなたの独裁も続かないだろうと語っている。

[B] What was the cost or pain of economic reform policies in Chile? Who were the main victims?

→ピノチェトは軍の圧力を使い、反対勢力を押しのけた状況で思い切った改革に踏み切った。厳しい経済改革は失業率を30%まで引き上げ、貧富の差を拡大させた。結果貧困層は大きな苦痛を背負わされたのだった。

<Chaper6>

70年代初頭、チリでは選挙によってアジェンデ政権が誕生した。アジェンデ大統領は企業の国有化と接収を行うなど左翼政策を実行するが、経済は混乱を極めチリは分裂状態となった。これを受けてピノチェト将軍らが率いる軍事クーデタが勃発し、アジェンデは殺害された。しかし、ピノチェト軍事政権発足後も経済混乱は続き、経済的構造改革が求められていた。そこで新たな経済改革計画を練ったのはChicago Boysと呼ばれるグループであった。

<Chapter7>

Chicago Boysとは、シカゴ大学に留学し経済学を学んだチリ人経済学者のグループであった。彼らはミルトン・フリードマンに師事して市場に重点を置いた自由主義経済を学んでいた。ピノチェト政権下での新自由主義経済改革を目指した彼らはチリにフリードマンを招聘、フリードマンはチリで自由市場と政治的自由の関係を論じるとともに、ピノチェトと会談した。病気の犬を直すには、尻尾を少しずつ切るのではなく一気に根元から切るべきだ、という例えを出したように、フリードマンは根本からの経済改革を提言した。ピノチェトはこの提言を受け入れ、新自由主義改革に乗り出した。反対勢力を軍事力で排除する大胆な経済改革はチリの経済を改善に向かわせたものの、失業率の上昇や貧富の差の拡大により多くの一般市民が改革の犠牲者となった。チリの経済改革は新自由主義改革のさきがけとなる重要な例ではあったが、その実現はピノチェトの圧政と結びついていたがために、他の国への改革の印象を悪化させてしまった。事実フリードマンに対する世界中の反感も強く、1976年のノーベル賞受賞の際にも抗議活動が行われた。

**The Kremlin, Moscow**

[KN] **Mikhail Gorbachev**

ミハイル・ゴルバチョフ

→[1985年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1985%E5%B9%B4)に[共産党](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BD%E3%83%93%E3%82%A8%E3%83%88%E9%80%A3%E9%82%A6%E5%85%B1%E7%94%A3%E5%85%9A)[書記長](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9B%B8%E8%A8%98%E9%95%B7)に就任し、ソ連国内では東欧の[社会主義](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E4%B8%BB%E7%BE%A9)諸国民主化の契機となった[ペレストロイカ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%82%AB)（改革）と[グラスノスチ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%8E%E3%82%B9%E3%83%81)（情報公開）を進め、政治・経済・文化など多岐にわたる分野で合理化・民主化を行った。外交面ではそれまで40年以上続いていた[冷戦](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%B7%E6%88%A6)を、[マルタ会談](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%82%BF%E4%BC%9A%E8%AB%87)にて就任して僅か5年目で終結させ軍縮を進めるなど、[世界平和](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%92%8C)に多大に貢献した。

[A] What was the problem of the Soviet Union Gorbachev discovered? Listen to what he says about women’s pantyhose.

→世界有数の軍事大国であるソ連も、central planningの体制下では女性のパンティーストッキングなど生活必需品にすら事欠く経済状況であった。ゴルバチョフは、こんな政府の長をやるのはばかばかしいことだとも語っている

[KW] **Perestroika**. What is “perestroika”?

ペレストロイカ

→ロシア語で「再構築（改革）」を意味する。[1985年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1985%E5%B9%B4)に共産党書記長に就任した[ミハイル・ゴルバチョフ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%B4%E3%83%AB%E3%83%90%E3%83%81%E3%83%A7%E3%83%95)が提唱・実践した。経済立て直しの試みとして市場中心経済への変革を目指し、市場経済に必要なインフラを整備するため政治的変革を行おうとしたもの。

[KN] **Ronald Reagan**

ロナルド・レーガン

→アメリカ大統領(任期: 1981– 1989)。Commanding Heights 1シケプリ参照。

[KN] **Margaret Thatcher.** Listen to what she said to Gorbachev. What theory was it?

マーガレット・サッチャー：「私の仕事はあなたの仕事よりずっと楽だ」

→サッチャーがゴルバチョフとの会談において言った言葉。ソ連のように生活必需品の値段から労働者の賃金まで逐一政府が決める必要などなく、市場に任せておけば上手く行くのだからイギリス政府は何もする必要がない、という意図。アダムスミスの「神の見えざる手(invisible hand)」の思想を説明したものである。

<Chapter8>

ソ連内部において、70~80年代にはソ連の経済システムが機能していないのは明らかであった。経済学専攻者からはシステムへの疑念が湧き上がるものの、これらは公に発言することが許されなかった。彼らは当局から隠れてフリードマンやハイエクを読み、市場経済を論じたのであった。

こうした状況下に現れたのがミハイル・ゴルバチョフであった。最高指導者となったゴルバチョフが見たのは、宇宙進出すら成し遂げた軍事大国が、庶民の生活必需品すら欠いているという荒廃した経済の状況であった。彼は、restructureの試み「ペレストロイカ」を進め、市場経済に必要なインフラを整備するための漸進的政治改革を目指した。

改革の最中、ゴルバチョフは新自由主義経済改革の推進者である米・レーガン大統領や英・サッチャー首相から多大な圧力を受け、イギリス訪問時にはサッチャー首相と会談した。その際、サッチャーはゴルバチョフに市場経済の重要性を語ったのであった。

**Warsaw, Poland**

[KE] **Shipyard workers’ struggle against Communist rule in Gdansk 1980**.

→ポーランド経済が崩壊するなか、物価高騰と食糧不足に対してグダニスクの造船所労働者が立ちあがった運動。

[KN] **Lech Walesa**.

レフ・ワレサ

→元は電気技師。労働組合指導者として立ち上がり、後にポーランド共和国第2代[大統領](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%B5%B1%E9%A0%98)となる。共産党支配に対する抵抗活動の指導者として自由労働組合「連帯」を組織する。

[KW] **Solidarity**.

独立自主管理労働組合「連帯」

→[ポーランド](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89)の[労働組合](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%B4%E5%83%8D%E7%B5%84%E5%90%88)であり、[1980年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1980%E5%B9%B4)、[社会主義](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E4%B8%BB%E7%BE%A9)[国家](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E5%AE%B6)として初の[労働者](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%B4%E5%83%8D%E8%80%85)による自主的かつ全国規模の労働組合として結成された。ワレサの下共産体制に反対し、自由と民主化を要求した。1981年に政府により非合法化され、ワレサも逮捕された。

[C] What did Margaret Thatcher say about the relationship between economic freedom and political freedom?

→economic freedom and personal freedom go hand in hand.

<Chapter9>

経済が混迷するポーランドでは1980年、物価上昇と食糧不足を受けてグダニスクの造船所労働者による抵抗運動が起こった。共産党政権に対する抵抗運動は民主化を求める動きとして拡大し、ワレサを指導者とした共産圏初の自主的労働組合「連帯」が組織された。しかし、1981年に「連帯」が非合法化されワレサが逮捕されると、運動は鎮静化した。

その後、1988年にサッチャーがグダニスクを訪問すると、大衆から熱烈な歓迎を受けるとともに、ワレサとの会談が行われた。サッチャーはワレサに経済的自由と政治的自由の関係性を語り、この会談は後のポーランドの改革にとって重要な意味を持つものとなった。

**La Paz, Bolivia**

[KW] **hyperinflation**.

ハイパーインフレーション

→定義上は100%を超えるインフレーション。ボリビアでは23500%という驚異的なインフレが発生した。ハイパーインフレは貧富の差を急拡大させる。富裕層は土地や株式、海外銀行預金などによって財産を保持することができるが、そうした手段を持たない貧困層は一瞬にして財産を失ってしまう。

[A] Why did Bolivia “have to” turn back toward free-market? What were the funda- mental problems in Bolivia? Why did Bolivia have “hyperinflation”?

→ボリビアは税収の30倍もの財政支出を行っていた。もともと税収がほとんどなく、資金を手に入れる手段として紙幣の増刷が行われた。

[KW] **debt**.

→1970年代、ISI下の非競争的経済の中でラテンアメリカ国家は債務を重ねていた。しかし対外債務の増加は後の金融危機を引き起こし、10年に及ぶ経済停滞の原因となった。

[KW] **petrodollars**.

→こうした対外債務の増加には、オイルマネーが流れ込み資本が潤沢になった海外銀行が、南米国家を資本投下先として大量の貸し付けを行ったことが背景にある。

[KE] **1982 financial crisis in Mexico**.

メキシコ債務危機

→1980年代初頭にメキシコで起きた経済危機を指す。(世界的な石油余剰と原油価格の下落により、メキシコの対外債務が急増、資金の海外流出が止まらず外貨準備高は激減、ペソが急落したことが原因)金融危機は南米各国に波及した。

[KW] Latin America’s “**lost decade**.”

失われた10年

→メキシコの金融危機はラテンアメリカ各国に波及し経済危機を引き起こした。ボリビアの場合は特に深刻で、世銀やIMFも救済をあきらめた。

**Harvard University, USA**

[KN] **Jeff Sachs**.

ジェフリー・サックス

→アメリカの経済学者。史上最年少の29歳でハーバード大学のfull professorとなった。

(これまで、[ラテンアメリカ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%86%E3%83%B3%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB)、東欧、[ユーゴスラビア](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%83%93%E3%82%A2)、[ロシア](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%82%B7%E3%82%A2)政府の経済顧問を歴任、特に[ボリビア](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%83%93%E3%82%A2)、[ポーランド](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89)、ロシアの経済危機への解決策のアドバイスや[IMF](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E9%80%9A%E8%B2%A8%E5%9F%BA%E9%87%91)、[世界銀行](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%96%E7%95%8C%E9%8A%80%E8%A1%8C)、[OECD](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8D%94%E5%8A%9B%E9%96%8B%E7%99%BA%E6%A9%9F%E6%A7%8B)、[WHO](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%BF%9D%E5%81%A5%E6%A9%9F%E9%96%A2)、[国連開発計画](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E9%80%A3%E9%96%8B%E7%99%BA%E8%A8%88%E7%94%BB)等の国際機関を通じた貧困対策、債務削減、[エイズ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%8C%E5%A4%A9%E6%80%A7%E5%85%8D%E7%96%AB%E4%B8%8D%E5%85%A8%E7%97%87%E5%80%99%E7%BE%A4)対策等への積極的な活動で知られる。タイムマガジンの世界で最も影響力のある100人に連続してノミネートされている唯一の学者でもある)

[KN] **President Gonzalo Sanchez de Lozada**.

ゴンサロ・サンチェス・デ・ロサダ

→ボリビアの政治家。大統領を2回務めている。[1986年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1986%E5%B9%B4)に[エステンソロ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%93%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%91%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%A8%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%B3%E3%82%BD%E3%83%AD)政権下で経済企画大臣を務めているとき、いわゆる「ショック療法」を実施して経済を立ち直らせた。

[KW] **shock therapy**.

[B] What is the shock therapy? According to Sachs, under what circumstances, should governments adopt the shock therapy?

ショック療法

→従属論とは正反対の政策にあたる。政府支出の削減、価格統制の廃止、関税の撤廃を行い、歳入と歳出のバランスのとれた政府を目指した。段階的な手法を取るのでは経済危機は解消しないとして、抜本的改革を一挙に推し進めるものであった。抵抗勢力の存在を危惧し、計画は秘密裏に練られた。

[B] Why did shock therapy spell the death of dependency theory? Why did the Bolivian experience have important influence for other economies?

→それまでショックセラピーのような急激な改革は、ピノチェト政権のような強硬手段を以てしなければ実現できないと思われていた。しかし、ボリビアは民主主義体制下でそれを実現し、他のラテンアメリカ国家にとって重要な先例となった。

<Capter10>

ボリビアは南米の最貧国のひとつであり、幾度となく軍事クーデタに見舞われる政情不安定な国であった。1980年代にはハイパーインフレーションに見舞われ、貧富の差が拡大した。

1970年代、ISI下のラテンアメリカ国家は、オイルマネーが流れ込み資本規模が拡大した海外銀行の投資対象となり、大量の貸し付けを受けて対外債務が膨らんでいた。こうした状況はメキシコ財政の破綻を招き、メキシコ債務危機が発生した。この金融危機は南米諸国に波及し、「失われた10年」と呼ばれる経済停滞期を生み出したのだった。

ボリビアは財政支出が税収の30倍という極めて不安定な状況にあり、金融危機に際し支出の捻出のために行った紙幣の増刷は、ボリビアに急激なハイパーインフレーションをもたらした。そしてボリビア経済は崩壊し、世界銀行やIMFすら撤退を決めたのだった。

ボリビアの救済に乗り出したのは、ハーバード大学教授のジェフリー・サックスであった。彼がボリビアに到着した際にはインフレ率は60000%にも及んでいた。そこで彼は有能な政治家、ゴンサロ・サンチェス・デ・ロサダに出会うのであった。

<Chapter11>

ロサダは経済企画大臣としてハイパーインフレ対策にあたり、サックスはその手法としてradicalな改革の必要性を訴えた。そして政府はいわゆる「ショック療法」の実施を決定し、支出の大幅削減、価格統制の廃止、関税の撤廃などの政策を一気に推進し、健全な財政を目指した。

ボリビアは小さな国ではあったが、それまでピノチェト政権のような軍事的抑圧の下でなければ成功しないと思われていた新自由主義経済改革を、民主主義政権下で実現した。これは他の南米諸国、さらには世界中に大きな影響を与える重要な先例となったのであった。

**Warsaw, Poland**

[C] In Poland, which freedom came first, political or economic?

→この頃多くの国々が政治的・経済的自由化を行おうとしていたが、ポーランドの場合は「連帯」の活躍により政治的自由を先に獲得した。政治的自由と経済的自由の関係性は、今までのチャプターでたびたび取り上げられてきた問題である。

[B] Why must Poland move “quickly” after its transition from socialism to capitalism?

→共産政権を倒し数十年ぶりに民主主義という政治的自由を獲得したという民衆の喜びは、ワレサ率いる新しい政権に対する支持率を極めて高い状態に保っていた。こうした特殊な状況下であれば非常に困難な経済改革をも成し遂げられると考え、民衆の期待感が収まらぬうちに早急に改革を行う必要があった。

[KW] **privatization**. What does it mean by “privatization”? What did this policy intend to do?

民営化

→赤字を出し続ける非効率な国営企業を、国庫に負担をかけない効率的で自立した企業にするための試み。効率化の手段として、それまでの労働者待遇の見直しやレイオフが行われるため、改革は労働組合を通じた労働者の激しい反対運動に直面する。そのため民営化は新自由主義改革の中でも最も難しい改革の一つといえる。

[B] On whose shoulder did the cost or pain of the transition fall? Who lost? Why was it ironic?

→改革による苦痛を背負ったのは、「連帯」の基盤として政治的自由を獲得するのに中心的役割を果たした労働者たちだった。労働者が中心となって新たな民主的政権の樹立を支えたのにも関わらず、その政権が行った政策が労働者を苦しめるというのは、皮肉な結末であった。

<Chapter12>

ジェフリー・サックスは、ラテンアメリカでの成功を評価されポーランド政府に経済政策への助言を求められた。当時のポーランド経済は物資が不足する危機的状況で、民主化要求が高まる中円卓会議は自由選挙の実施を決めた。「連帯」は圧倒的な支持を集めて政権を獲得し、ポーランドは政治的自由化を成し遂げた。

政権内では、自由の獲得に沸く民衆が政権に強い期待感を抱くうちに、早急な経済改革を行うことが画策された。そこで行われたのは、ボリビアと同じショックセラピーであり、急激な新自由主義改革が行われた。

<Chapter13>

改革の中で最も大きな反対運動が巻き起こったのが、民営化であった。非効率な国営企業を効率的で自立した企業に変えようとするこの試みは、多くのポーランド労働者のレイオフを招くものでもあり、激しい抗議活動が発生した。経済改革の痛手を被ったのは、ポーランドの政治的自由の復興に大きく貢献し、「連帯」を政権の座に着かせた労働者たちだったのだ。政権を支えた労働者たちがその政権の政策の苦痛を背負うというのは皮肉な出来事ではあったが、改革によってポーランドの市場は機能し始め、ポーランド経済は上向いていったのであった。

**Beijing, China**

[KE] **1989 Tiananmen Square protest in China.**

天安門事件

**→**[1989年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1989%E5%B9%B4)[6月4日](http://ja.wikipedia.org/wiki/6%E6%9C%884%E6%97%A5)、[天安門広場](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%AE%89%E9%96%80%E5%BA%83%E5%A0%B4)に[民主化](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%91%E4%B8%BB%E5%8C%96)を求めて集結していた一般市民の[デモ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%87%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3)隊に対して、「[中国人民解放軍](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E6%B0%91%E8%A7%A3%E6%94%BE%E8%BB%8D)」が武力弾圧（市民に向けての無差別発砲や[装甲車](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%85%E7%94%B2%E8%BB%8A)で轢き殺すなど）を行い、多数の死傷者が出た事件。中国は経済面で自由化を推進してはいたものの、共産主義政権による支配が続き、政治的自由を求める運動を徹底的に弾圧する姿勢を見せた。

[KN] **Deng Xiaoping.**

鄧小平

→中華人民共和国の政治家。度重なる失脚を乗り越え、「[改革開放](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%94%B9%E9%9D%A9%E9%96%8B%E6%94%BE)」政策によって中華人民共和国の[市場経済](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%82%E5%A0%B4%E7%B5%8C%E6%B8%88)化に着手した。[1978年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1978%E5%B9%B4)から[1992年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1992%E5%B9%B4)までの、事実上の中華人民共和国の最高権力者であった。

[C] The process of neoliberal transformation in China was different from that in Poland or in Russia. What is the essential feature of “**socialism with Chinese characteristic**”? In China, which freedom was supposed to come first, political or economic?

「中国流の社会主義」

→政治面では共産主義体制を存続させ、経済面では市場経済を導入する中国の経済改革のあり方。政治的自由と経済的自由の到来の順序は、ポーランドのそれとは反対の関係にある。一方で強力な政府の圧力で反対勢力を抑え込み、新自由主義改革を推し進める姿勢はチリのピノチェト政権との類似点を見て取れる。

[C] Why didn’t Gorbachev of the Soviet Union do the China approach?

→ロシアは都市の労働者が人口の80%を占める高度に工業化の進んだ社会であり、労働者がcommanding heights of the economyを握っていた。新自由主義経済改革を行おうとすると、これらの労働者グループと対峙せざるを得ず、経済システムの根本からの変革を当初から迫られるのだった。一方中国は人口の8割が農村に集中した農村中心経済であり、周辺から段階的に経済改革を行うことが可能だった。

<Chapter14>

ゴルバチョフは経済改革の必要性を認識していたが、ポーランドのようなショックセラピーを行うことをためらった。彼が目を向けたのは経済開放政策を進める中国であった。

中国では鄧小平の下に市場経済の導入が進められていた。socialism with Chinese characteristicの理念を掲げ、政治システムには独裁的共産主義体制を残したまま、経済面では自由主義的な経済改革を行っていた。彼らは天安門事件に見られるように民主化運動を弾圧し政治的支配力を保つ一方、市場経済システムによる経済成長の利益を得たのだった。

これらはソ連のような体制の分裂を防ぐための中国的やり方であったが、ソ連も同じ手法を考えなかったわけではなかった。しかし、人口の8割が都市労働者であるロシアでは、8割が農村居住者である中国とは違い、経済改革は産業の根幹部分の変革を求めるものであり、中国のように政治体制を維持したまま段階的に市場経済へ移行するというプロセスは取れなかったのである。

**Moscow, Soviet Union**

[KE] **August 1991 Communists staged a coup against Gorbachev; Boris Yeltsin emerged as the democratic leader.**

ソ連8月クーデタ

→[1991年](http://ja.wikipedia.org/wiki/1991%E5%B9%B4)[8月19日](http://ja.wikipedia.org/wiki/8%E6%9C%8819%E6%97%A5)に、[モスクワ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%AF)で発生した[ゲンナジー・ヤナーエフ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B2%E3%83%B3%E3%83%8A%E3%82%B8%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%A4%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%82%A8%E3%83%95)ら守旧派によるクーデタ。[ボリス・エリツィン](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%A8%E3%83%AA%E3%83%84%E3%82%A3%E3%83%B3)らを中心とした市民の抵抗により最終的に失敗に終わった。この事件によってエリツィンの影響力が高まるとともにゴルバチョフの威信が失墜し、[ソ連崩壊](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BD%E9%80%A3%E5%B4%A9%E5%A3%8A)をもたらした。

[KN] **Boris Yeltsin.**

ボリス・エリツィン

→ロシア連邦の初代大統領(在任:1991-99)。「ショック療法」による急激な市場主義経済導入を図った。

[C] Unlike Gorbachev, Yeltsin wanted to introduce market reforms fast. What　advantage do you think he had in 1991-1992, which Gorbachev never had?

→?ロシア連邦成立により民主化に成功し政治的自由を得ていた。

[B] What were the immediate effects of Gaidar’s reform, such as abolishing the　Soviet law that made private enterprise a criminal activity?

→市場が機能して物資不足は無くなったが、価格自由化によりハイパーインフレーションが発生、民衆の貯蓄・資産に打撃を与えて多くの民衆が貧困に見舞われた。ショック療法はその成果が現れるまでの期間が予想できないものであり、その間政権への反発は当然強くなる。

<Chaptor15>

1991年に発生した共産保守派のクーデタは、ボリス・エリツィンを中心とした市民の抵抗により失敗に終わった。しかし、これによりゴルバチョフの名声は失墜し、ソ連は崩壊に向かった。ソ連が法的に消滅し、エリツィンを大統領としてロシア連邦が成立すると、エリツィンはエゴール・ガイダルに経済政策を一任した。

当時のロシア経済は、ゴルバチョフの不完全な改革によってインフレや物資不足に見舞われ、崩壊状態にあった。さらに、ロシアの議会はいまだ共産主義者が多数を占めており、ガイダルの推進しようとする自由主義経済改革は強い反発にあった。

<Chapter16>

ガイダルは価格統制の廃止や私的営業を禁止する旧ソ連の法律の廃止に踏み切り、自由市場の力で物資の不足を解消しようと考えた。その結果、市場の機能によって不足こそ解消されたものの、ハイパーインフレーションが発生し、市民の蓄財が無に帰するなど経済改革に対する反感を強めた。

**New Delhi, India**

[B] Why in India were domestic forces that had been resistant to neoliberal economic reforms silenced?

→授業中には言及されず。インドの新自由主義改革は改革後からすぐに効果を発揮し、最終的には年7%の経済成長成し遂げるに至った。

<Chapter17>

ソ連の崩壊は世界中に影響を与えた。

インドは、官僚による計画経済と世界の貿易からの隔絶により経済が停滞、非効率化し、対外債務を重ねていた。インド財政は深刻な危機に瀕しており、ソ連崩壊によりcentral planningのロールモデルを失ったことは、インドが新自由主義改革へ乗り出す契機となった。国家の経済統制は緩和され、補助金も削減、関税や貿易障壁は取り除かれ、Permit Rajは終焉を迎えた。経済改革は順調に推移し、インド経済は大きな成長に向かっていった。

**Moscow, Russia**

[B] Communist opposition successfully forced Gaidar out at the end of 1992. What happened with the Russian privatization processes afterwards?

→サックスによれば、数十年間所有は窃盗だという主義の共産体制下に育ったエリートたちは、市場主義が取り入れられ私的所有が認められた社会において、所有していいなら盗ってもいいのだ、と考えたという。結果として、民営化のプロセスには深刻な汚職が発生することとなった。

[C] According to Grigory Yavlinsky, what is the fundamental difference between the transition in Poland (and other Eastern Europe) and that in Russia?

→ポーランドでは民主化に伴い支配層の交代が起こったが、ロシアでは民主化後も議会に共産主義勢力が残存した。そのため、ショック療法のような激しい経済改革に対して民衆が失望すれば、共産主義へと回帰してしまうのではないかという懸念があった。

[KW] **the oligarchs.**

オリガルヒ

→[ロシア](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%82%B7%E3%82%A2)の[資本主義](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B3%87%E6%9C%AC%E4%B8%BB%E7%BE%A9)化の過程で形成された政治的影響力を有する寡頭資本家。当時、ロシアの根幹企業を握っていたのはRed Directorsと呼ばれる人々であったが、民営化に際しRed Directorsから企業を奪い取ろうとしたのがオリガルヒであった。オリガルヒはエリツィンの再選を財政的に支援し、当選の見返りとして民営化による企業売却時の優遇を求めた。

[C] The stories and interviews (especially the one with Vladimir Potanin) reveal how Russian economic reform, privatization in particular, ended up converting Russian people’s vast public resources into a private property of a minority called “the oligarchs.” What went wrong? Why did the “theft of the century” happen?

→民営化の過程は不透明で不公正であり、結果としてロシア国民の富は少数の人間の私的財産となった。彼らはそれ以外に大統領選での共産主義者の再選を防ぐ方法はなかったのだと弁明している。

<Capter18>

ロシアではガイダルらにより新自由主義経済改革が進行し、1992年には国有企業の民営化が計画された。民営化は、企業を多くの国民の財産に帰するものだという理念が掲げられたものの、民営化の対象となる企業はなかなか見つからなかった。初の民営化の試みはモスクワのクッキー工場に対して行われたが、これに対して共産主義者の支配する議会は激しく異を唱え、ガイダルを解任した。そして、ガイダル解任後に起きたのは民営化における汚職の横行であった。

<Chapter19>

当時のロシアの巨大企業は、Red Directorsと呼ばれる人々によって支配されていた。彼らはソ連時代からthe commanding heights of the economyを掌握し、ソ連経済を実質上動かしていたのだった。

そんな中、民営化を通じ彼らから企業を奪おうと試みたのが新興財閥のオリガルヒであった。彼らはRed Directorsとの戦いにおける政治的支援を受けようと、共産主義者の再選を防ぐため大統領選の資金援助を求めていたエリツィンらと共謀した(a loans-for-share program)。オリガルヒはエリツィンの再選を強力に支援し、当選の見返りとしてRed Directorsの手にする国営企業を切り売りすることが約束された。そしてエリツィンは実際に大統領選で再選を果たしたのだった。

<Chapter20>

以上のように、ロシアの民営化の過程は非常に不透明で、不公正なものだった。The loans-

for-share programは、共産主義者の再起を防ぐという名目の下に、本来は多くの国民の財産となるべき国有企業を一部の人間に破格の値段で売り渡すものであり、実際オリガルヒのウラジミール・ポターニンは、世界の3分の1のニッケルを握り年25億円の利益を生み出す企業を、1億7000万円という値段で手にしたのだった。

結局エリツィンの下での経済改革は、汚職、インフレ、不平等を生みだすものとなってしまった。そして、1998年のロシアの金融危機が原因となり、2000年初頭にエリツィン政権は終わりを告げるのだった。

**The New Century**

[Optional] Ricardo Lagos, Chilean president, says about the economic reforms, “It is not something of the right-wing parties nor the left-wing parties. It’s simply sound economic policies. To learn that took some time.” How do you think about this?

<Chapter21>

新自由主義改革という同じ目的を抱えていても、国家によりその過程や結末は大きく異なった。しかし、ポーランド、チリ、ボリビア、インドはそれぞれ改革により多大な恩恵を受け、ロシアも汚職など様々な問題を抱えつつも、プーチン政権の下変革を遂げながら大きな経済成長を達成している。

世界は大きな変革期を終え、資本主義が世界中を支配する時代となった。そこには地球規模の市場が出来上がりつつある。グローバリゼーションが始まったのだ。

**NOTE**

What do the stories from Russia, Poland, India, and China teach us about the ways of theorizing international and domestic factors? These countries faced the same global economic forces (external factors were very similar), but their reactions, strategies, and people’s lives turned out to be strikingly different.

<編集後記>

英語Ⅰが終わったのに何でまたこんな大量の英語と格闘する羽目に・・・。

時間かかったけど、その分それなりに丁寧な作りだと信じる。

でもところどころ授業での解説が省かれたりしてるのがウザかった。

まぁそういうところはテストには出ないとは思いますが。

エピソード2はサッチャーとかゴルバチョフとか、みんなが知ってる名前がたくさん出てきて面白いですね。

ピノチェト、ワレサ辺りも世界史選択者としては懐かしい限りです。

でもこれを調べてて思ったのは、ジェフリー・サックス偉大すぎだろ、と。

29歳で教授になってさらに、途上国の経済を救うために奮闘して、貧困問題にも積極的に取り組むとかヤバい。

早くノーベル賞あげた方がいい。

ちなみにこの章に出てきた人でノーベル賞を取ってるのは、フリードマン、ワレサ、ゴルバチョフ辺りですかね。

やっぱり偉大な人ばっかりですね。

夜中のテンションでやたらハイテンションに書きつけておりますが、この辺でやめときましょう。

みなさん是非とも社会1で高得点を狙いましょう！

ではでは。

大川祐作